

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第32回皇后盃
全日本女子柔道選手権大会

朝比奈沙羅が初の栄冠



決勝戦Ⅱ朝比奈(右) 対田知本

第61回全日本銃剣道優勝大会

一般の部は神奈川が制す



一般の部決勝・大将戦Ⅱ攻め込む神奈川・鈴木(左)

平成29年全日本柔道選手権大会

王子谷剛志（旭化成）が連覇

三度目の栄冠を胸に世界選手権に臨む



決勝＝王子谷剛志（右）対ウルファロン

体重無差別で男子柔道日本一を決める「平成29年全日本柔道選手権大会」（主催＝公益財団法人講道館、公益財団法人全日本柔道連盟）は4月29日、日本武道館で開催された。当日は、約9200名の観客が詰めかけ、優勝の行方を固唾を呑んで見守った。

決勝は、連覇を狙う東海大出身の王子谷剛志（おじしたけし）五段（推薦・旭化成）とウルファロン三段（東京・東海大）の先輩・後輩対決となり、王子谷が積極的な攻めを見せてウルフに指導差で勝利。2年連続3度目の優勝を飾った。大会連覇は、2004・2



005年の鈴木桂治^{すずき けいじ}以来12年ぶり9人目。

3位には昨年3位の七戸龍五段^{しちのへりゅう}（九州・九州電力）と平成24年覇者の加藤博剛^{かとう ひろたか}五段（関東・千葉県警）がそれぞれ入賞した。

また、本大会は今年8月にハンガリー・ブダペストで開催される世界選手権大会の100kg超級日本代表選手の最終選考会も兼ねて実施された。大会終了後に開かれた強化委員会で、本大会で優勝した王子谷が初選出。あわせて3回戦で百瀬優^{ももせ ますみ}（九州・旭化成）に敗れたが実績を評価されて原沢久喜^{はらざわ ひさよし}（推薦・日本中央競馬会）が代表に選ばれた。選考にあたっては、国際大会や国内大会、さらにIJFポイントランキングの実績が考慮された。



本大会では男女平等の理念から、15名で構成する審判団に女性3名（松田基子氏、天野安喜子氏、樽谷哲子氏）が初めて起用された。

1回戦〜3回戦

大会は全国10地区の予選を勝ち上がった39名に前年優勝者と準優勝者、リオ五輪メダリストを加えた43名が参集し、体重無差別で熱戦が繰り広げられた。

試合は国際柔道連盟試合審判規定および全日本柔道選手権大会申合せ事項で行われ、試合時間は5分。時間内に勝負がつかない場合は、ゴールドスコア（以降GS）による時間無制限の延長戦で勝敗を決した。

◇第1・2ブロック

第1ブロック、前回覇者の王子谷



1回戦＝王子谷（左）対佐藤

剛志（旭化成）は、2回戦から登場。佐藤大地（羽黒高校教）が場外の指導を重ねて反則負、3回戦は指導を重ねた山本幸紀（日本エース）が反則負となり、手堅く準々決勝進出。

初出場の尾崎央達（センコー）は、初戦で帯川雄大（北海道警）の反則負、2回戦で下和田翔平（京葉ガス）から一本背負のフュイントで大内刈の有効を奪って勝利。続く3回戦は、影野裕和（愛媛県警）の反則負となり、準々決勝に駒を進めた。

第2ブロック、昨年3位の七戸龍

（九州電力）は、2回戦で香川大吾（東海大）の小外掛を透かし、隅落で有効を奪って勝利。続く丸山剛毅（旭化成）を大外刈で警戒させ、内股で仕留めて一本勝。昨年に続いて堂々のベスト8に進出。

3位入賞経験のある垣田恭兵（旭化成）は初戦で大外刈、背負投と果敢に攻め、一色勇輝（日本大）の反則負で勝利、2回戦では小川竜昂（新日鐵住金）と対戦。GSの末、垣田が小川の大内刈に対して巴投に切り返して技有で勝利。垣田が準々決勝進出を決めた。

◇第3・4ブロック

第3ブロック、昨年2位の上川大樹（京葉ガス）が体重20kg減で臨み、2回戦で松雪直斗（福岡県警）と対戦。GSで松雪を支釣込足で崩すと、そのまま崩上四方固に押さえて一本。3回戦は赤迫健太（新日鐵住金）と対戦し、支釣込足を決めると一本。幸先良く一本勝でベスト8に勝ち残った。

講道館杯と選抜体重別100kg級優勝で勢いに乗るウルフアロン（東海大）は2回戦で橋爪謙（長野県警）と対戦。開始わずか26秒、得意の内股を



2回戦＝ウルフ（右）が池田に小外掛を決めて一本

放つと橋爪がたまたま一回転して一本。3回戦は、リオ五輪73kg級金メダルの大野将平（旭化成）を降した初出場の池田賢生（日本中央競馬会）に、ウルフが巧みに仕掛けて小外掛を決めて一本。危なげない試合展開で準々決勝に進出した。

第4ブロック、本大会を機に引退する百瀬優（旭化成）が初戦の北野裕一（パーク24）と対戦。GSで小外掛の応酬に素早く反応し、北野に出足払を決めて優勢勝。2回戦は奥村達郎（日本エースサポート）を内股透で切り返し、横四方固に持ち込んで合技一本。3回戦は、リオ五輪銀メダル原沢久喜（日本中央競馬会）の内股に崩されかけるも送襟絞を極め、締め落として一本。どよめきの中、百瀬が有終の美を飾るべく準々決勝に勝ち進んだ。

優勝経験のある加藤博剛（千葉県警）は、初戦（2回戦）で五十嵐唯大（愛知県警）に電光石火の巴投で有効を奪い、続けざまに巴投で技有を重ねて勝利。続く対戦の後藤隆太郎（三井物産）を一本背負投の技有で破って、準々決勝進出を決めた。

王子谷剛志 ○内股 尾崎央達

王子谷が右、尾崎が左のケンカ四つ。互いに組手争いが続くが、挑戦者の尾崎は、粘り強く担技で王子谷に迫る。試合中盤、王子谷が尾崎の背負投に合わせて内股を放つと、尾崎を低く回しにいく。尾崎は反応する間もなく背中から畳に落下して勝負あり。王子谷は圧巻の一本勝で準決勝に進出した。



準々決勝＝王子谷（上）が尾崎に内股で一本勝

七戸 龍 ○腕挫十字固 垣田恭兵

七戸が右、垣田が左のケンカ四つ。試合序盤から組手争いが続く。垣田は消極的な姿勢と故意に組まないと指導2を重ねる。焦る垣田は、背負投を仕掛けていく。七戸はこれを跨いで素早く腕挫十字固に入る。肘を極められた垣田は七戸の背が畳に降りるとほぼ同時に参った。七戸が準決勝に進出した。



準々決勝＝七戸（左）が垣田に腕挫十字固を極める

ウルファロン ○反則負 上川大樹

膠着状態が続く、故意に組まない両者に指導1。さらに消極的な姿勢として両者に指導1の宣告。GSに入るとウルフが仕掛ける。肩車で上川を崩しつつ、内股で上川を牽制。さらに上川を支釣込足で崩したところ、上川に指導3の宣告があり、ウルフが勝利。ウルフは苦しみながらも初のベスト4に駒を進めた。



準々決勝＝体重約40kg差の上川に迫るウルフ（左）

加藤博剛 ○巴投 百瀬 優

再び王座を狙う加藤と背水の陣で臨んだ百瀬のベテラン対決。互いに決め手を欠いて、両者に指導が宣告される。加藤が積極的に攻め、得意の巴投で有効を獲得。その後も攻め続ける加藤に百瀬は成す術がない。百瀬が反撃の機会を逸したまま試合は終了。健闘を称える拍手の中、引退する百瀬は涙で畳を後にした。



準々決勝＝加藤（左）は巴投の有効で先制

準決勝

王子谷剛志 ○縦四方固 七戸 龍

互いに右組での相四つ。奇しくも昨年と同じ顔合せとなった。序盤は七戸が内股や背負投を繰り返す。一方の王子谷は組手争いで圧力を強めていく。張り詰めた空気の中、一進一退の攻防が続く。王子谷は一瞬の隙をついて支釣込足を仕掛けて七戸を崩し、前に屈んで持ち堪えようとする七戸の肘を極める。最後は腕挫腕固の状態で倒して縦四方固で一本。王子谷は正念場で見事に七戸を抑え、堂々の決勝進出を果たした。



準決勝Ⅱ七戸の関節を極めにかかる王子谷(左)

ウルフアロン ○反則負 加藤博剛

快進撃を見せるウルフと、試合巧者の加藤との対戦。開始26秒、加藤が豪快な巴投でウルフから有効を先取。ウルフは指導1を受けると反撃に出る。鬼気迫るウルフの圧力は加藤を防戦一方にさせ、加藤を指導2まで追い詰める。試合残り15秒、ウルフが大外刈から支釣込足に繋いで加藤が腹這いとなる。攻めることができない加藤はさらに指導3となつて試合終了。ウルフは加藤に競り勝ち、初めて決勝の舞台に勝ち上がった。



準決勝Ⅱ大内刈で攻めるウルフ(左)



決勝＝王子谷（右）は猛攻をかける



決勝＝王子谷（右）は終始ウルフに圧力をかけ続けた

決勝

王子谷剛志 ②指導2 ウルフアロン

決勝の舞台は東海大の先輩・後輩対決となった。全日本連覇と世界選手権代表の座を虎視眈々と狙う王子谷。その王子谷に上川大樹と加藤博剛という猛者を破竹の勢いで降した後輩ウルフが迫る。王子谷は引手で襟、釣手で奥を掴んでウルフにじわじわと圧力をかけ続ける。頭を下げさせられたウルフも、王子谷を内股で揺さぶるが反撃の機会は見出せない。試合中盤、積極性に欠けるとしてウルフに指導1が言い渡される。GSに突入すると、ウルフの仕掛けた隅返で両者が激しくぶつかって試合は一時中断。巻き返しを図るウルフは要所で気迫の攻めを見せるが決め手に欠く。一方の王子谷は怯まず、小外刈、内股と徐々に手数を増やしていく。一進一退の攻防を見せるもウルフに指導2が宣告されて試合終了。王子谷が2大会連続、3度目の栄冠を手にした。

優勝者インタビュ

◎優勝Ⅱ王子谷剛志選手（旭化成）

悔しかったリオ五輪代表落選を原動力に



1992（平成4）年6月9日生まれ、24歳。大阪府泉佐野市出身。旭化成所属。186cm、145kg。得意技は大外刈。右組。五段。7歳で柔道を始める。2009年、東海大相模高校時代に高校3冠（全国高校柔道選手権大会・金鷲旗高校柔道大会・柔道競技大会）を達成。全日本ジュニア柔道選手権大会優勝し、2011年に世界ジュニア連覇。全日本選手権大会は2014、2016年に優勝。

「最高です！」

開口一番に喜びを爆発させた王子谷選手。3度の優勝は井上康生らに並ぶ歴代4位の快挙。さらに連覇達成に喜びも一入だった。

「優勝できて素直に嬉しいです。初戦から苦しい戦いが続きましたが、準々決勝からはリズムよく戦うことができました」

決勝戦の相手は東海大学時代に「全日本の舞台であたるかもしれない」と感じ、稽古でも乱取りを意図的にしなかったという後輩のウルフ選手。決勝戦を振り返った。

「力があってスタミナも落ちない相手でした。しかし、後輩なので何が

何でも勝つという気持ちで戦いました。意地を出して攻め、きつくな

たところで技を出せてよかった」

これで昨年の講道館杯、グラندスラム東京、同パリ、全日本選抜体重別と出場した全5大会で優勝となった。好調の要因を探った。

「去年は優勝しながらもリオ五輪日本代表に落選して、絶対見返してや

ると思っていました。その悔しさが原動力です。そこで頑張らなければ

という気持ちが強くなりました」

悔しさを力に変えるため、講道館杯優勝後、熱心に筋力トレーニングに励んだという。

「引く力の弱さを改善しようと専門

家に教えを請いました。ダンベルは60kgから90kgまで引けるようになり、3回しか上がらなかった懸垂も今では10回近くできるようになりました。また、苦手な左組の選手などこれまでやってこなかった選手とも積極的に組んできました」

こうして努力は実を結んだ。最後に念願の世界選手権への切符を掴んだ感想を聞いた。

「19歳の時に世界ジュニアで優勝し

てからやつと貰えたチャンスなので大切にし、120パーセントの力を出せるようにしていきたいです。目標に

している東京五輪は僕にとって最後の五輪になると思います。だからこ

そ、今回の世界選手権で結果を出して五輪に繋げるため、リネール選手

など世界の強豪と戦う準備をしつつかりしていきたい」

19歳で世界ジュニアを制した逸材が5年かけてたどり着いた世界トップ

の舞台。世界選手権を7連覇し、オリンピックも2連覇しているフ

ランスのデヴィ・リネール選手との一戦をどう迎えるか。王子谷選手の今後の努力に注目したい。

選手コメント

○準優勝Ⅱウルファロン選手（東海大）



「悔しいです。王子谷先輩とは対戦したことがなかったのですが

しみにしていました。自分より大きい選手にはパワーでは勝てませんが自分が動いてスピードを出せばいい。それが外国人選手にも通用するのではないかと実感できました」

▽3位Ⅱ七戸龍選手（九州電力）



「優勝したかったので悔しいです。準決勝は圧

うに捌（さば）こうと考えましたが、できませんでした。全日本のタイトルにはまた挑戦したいです」

▽3位Ⅱ加藤博剛選手（千葉県警）



「2014年講道館杯後に手術をして引退も考えました。しか

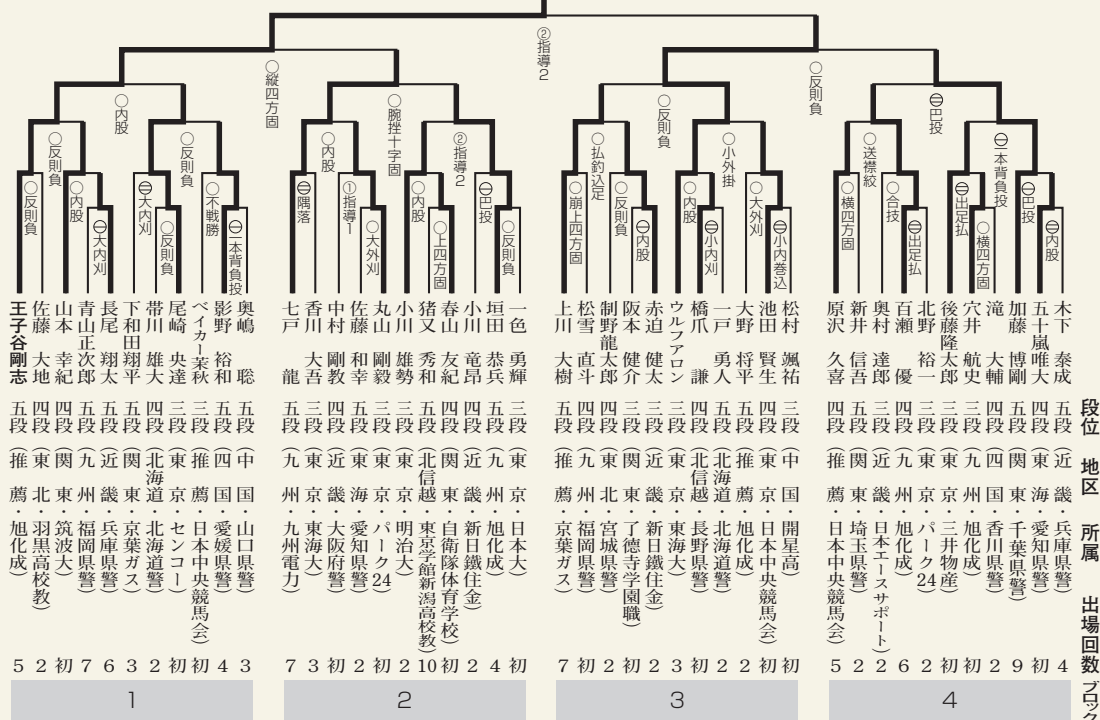
し体が動く限り、まだまだ若い選手の壁になつてやろうと思います」

柔道の貯金があつたからですかね。原沢選手とは分が悪く寝技でいいことうと思ひ、（送襟絞が） たまたま入りました。これが最後の全日本になりました。いい柔道人生でした」

「気持ちの整理
がつかないです。
落ちるところま
で落ちたので、プ
ライドをかなぐり捨てて、来年必ず
強くなつて戻ってきたいです」

「悔しいですが
この経験を負け
だけで終わらせ
たくないです。こ
の負けがあつてよ
かったと思える自
分を作っていくた
いです」

優勝 王子谷剛志



古式の形Ⅱ
取・菅波盛雄八段、受・水野博介八段



極の形Ⅱ
取・竹石憲治六段、受・植松恒司六段



取・秋本啓之五段、受・鮫島康太五段

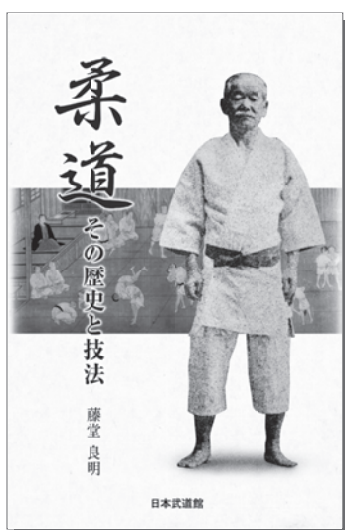
取・秋本啓之五段、受・鮫島康太五段

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

- | | | |
|--|--|---|
| <p>第一章 組討ちの起こりと技法</p> <p>体術の起こりと技法</p> <p>組討ちの体系化と技法</p> | <p>第三章 講道館柔道の歴史と技法</p> <p>講道館柔道の創設と技法</p> <p>嘉納治五郎の乱取開発</p> <p>講道館柔道の行事と整備</p> <p>警視庁武術大会の勝利と技法</p> <p>学校体操への柔道導入の試み</p> <p>学校における柔道普及の実態</p> <p>高専柔道の起こりと技法</p> <p>嘉納治五郎の他武道への接近</p> <p>精力善用国民体育の創案と技法</p> <p>全日本柔道選士権大会の開催と技法</p> | <p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法</p> <p>第二次大戦中の柔道界と技法</p> <p>第二次大戦後の柔道禁止と復活</p> <p>格技柔道から武道柔道へ</p> <p>女子柔道の競技化と技法</p> |
| <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法</p> <p>竹内流腰廻</p> <p>関口新心流柔術</p> <p>起倒流柔術</p> <p>起倒流柔道</p> <p>直信流柔道</p> <p>真之神道流柔術</p> <p>天神真楊流柔術</p> | <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題</p> <p>柔道技法の変遷と特徴</p> <p>柔道の国際的普及と発展</p> <p>段位制度の国際比較</p> <p>柔道の国際化と課題</p> | |



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中！

公益財団法人講道館道場指導部課長
向井幹博
(むかい みきひろ) 著

役に
立つ

少年柔道指導法

収録時間170分を超える
解説DVD付属！

DVD付き

役に
立つ **少年柔道指導法**

向井 幹博



A5判・並製・DVD付・414頁・本体2400円十税

〈目次〉

第1部 解説編

- 第一章 少年柔道は柔道指導の原点
- 第二章 基本動作の指導
- 第三章 技の指導
- 第四章 教育の中の柔道
- 第五章 指導の工夫
- 第六章 少年規定の変遷と問題点
- 第七章 柔道の安全指導
- 第八章 東日本大震災への講道館の対応

第2部 実技編

- 第一章 礼法の指導
- 第二章 受け身の指導
- 第三章 基本動作の指導
- 第四章 トレーニング法の指導
- 第五章 柔道の練習法
- 第六章 投技の指導
- 第七章 固技の指導

少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。
また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第32回皇后盃全日本女子柔道選手権大会

新女王 朝比奈沙羅 誕生





決勝＝朝比奈（右）が内股で田知本を攻める



開会式

朝比奈沙羅、優勝までの道のり

2回戦	○払 腰 (6 分 30 秒)	井上愛美
3回戦	○内 股 (6 分 37 秒)	前田奈恵子
4回戦	⊖大内返 (11 分 45 秒)	山本沙羅
準決勝	○払巻込 (4 分 47 秒)	高山莉加
決 勝	⊖払巻込 (5 分 00 秒)	田知本愛

第32回皇后盃全日本女子柔道選手権大会（主催＝公益財団法人講道館、公益財団法人全日本柔道連盟）は4月16日、横浜文化体育館で開催された。大会には3名の推薦選手と、全国の子選を勝ち抜いた34名の計37名が出場し、体重無差別で女子柔道日本一の座が争われた。

決勝は、20歳ながら既に国内外の大会で好成績を収めている朝比奈沙羅（東海大）と、元世界ランキング1位で東海大出身の田知本愛（ALSOK）の先輩・後輩対決となり、試合終盤に有効を奪った朝比奈が初優勝を飾った。昨年の優勝者で、リオ五輪銅メダリストの山部佳苗（ミキハウス）は、3回戦で敗れた。

試合は、国際柔道連盟試合審判規定および全日本選手権大会申合せ事項にて行われ、試合時間5分間、スコアに差がない場合はゴールデンスコア（以下GS）による時間無制限の延長戦で、勝敗を決した。

■1～3回戦 ▽Aブロック

昨年優勝の山部佳苗（ミキハウス）が早速登場したが、初戦で指を負傷



2回戦＝60kgの立川（左）が115kgの藤原に挑む



2回戦＝左指を負傷し、顔をしかめる山部（手前）



3回戦＝緒方（上）が内股で稲森に快勝



3回戦＝朝比奈（手前）が内股で前田に一本勝

優勝候補の朝比奈沙羅（東海大）が登場。井上愛美（JR九州）との初戦（2回戦）、前田奈恵子（JR東日本）との3回戦の2試合ともGSに突入するものの、それぞれ払腰、内股で一本勝。順当に勝ち上がった。先の選抜体重別柔道選手権3位の山本沙羅（ミキハウス）は、2回戦を合技で勝利して、続く3回戦は糸田晴乃（筑波大）と対戦。山本は開始から闘争心を剥き出しにして、糸田に攻めかかると、開始9秒、大外刈で技有を奪い、そのまま抑込で合技一本。圧勝で4回戦に駒を進めた。

するアクションメントに見舞われる。この試合に辛勝するも、3回戦の高山莉加（三井住友海上）との試合では、負傷の影響からか、なかなか技が出ず、GSの末に指導差で敗退。高山がベスト8に名乗りをあげた。
藤原恵美（大阪府警）は、初戦で今大会最年少で16歳、高校2年生の立川桃（新田高）を上四方固で破ると、3回戦で昨年3位の梅津志悠（三井住友海上）を崩壊袈固で降して、昨年に続いて8強に残った。

▽Bブロック

▽Dブロック
昨年まで3年連続で3位の市橋寿々華（大阪府警）は2回戦で濱田尚里（自衛隊体育学校）を膝車一本、3回戦で新垣さつき（国士舘大）を横四方固一本で退けて、本年もベスト8進出。
4年前の覇者、緒方亜香里（了徳寺学園）は2回戦で畑村亜希（東亜大戦）を開始33秒の内股で秒殺して、3回戦では、稲森奈美（三井住友海上）と対戦。緒方は体重差約30kgをものともせず、しっかり組んで内股

▽Cブロック
昨年の本大会決勝で敗れてオリンピック代表の座を逃し、復活を期す田知本愛（ALSO）は、2回戦で日高美沙希（ミキハウス）を払腰で降すと、3回戦の泉真生（山梨学院大）には、内股、谷落の合技で一本勝。危なげなく8強に残った。
全日本選手権の九州地区予選で優勝して初出場の児玉ひかる（三井住友海上）は、落ち着いた試合運びで佐俣優依（帝京大）を隅落の技有、後藤美和（日光警備保障）を合技一本で降して4回戦進出を決めた。



4回戦＝朝比奈（奥）の大内返で決着



4回戦＝緒方（左）が小外刈で勝利



4回戦＝田知本（左）が大外刈で児玉を仕留める

を仕掛けると、これが綺麗に決まっ
て一本。キレのある技が光った緒方
が快勝でベスト8入りを果たした。

■4回戦

高山莉加 ○反則負 藤原恵美

高山、藤原ともに右組の相四つ。
78kg級の選手である高山は、約40kg
の体重差がある藤原に対し、厳しい
組手で技を出させない。組手で優位
に立つ高山は内股、背負投を積極的
に仕掛けていく。技が出ない藤原に
指導が重なる。勝負はGSまでもつ
れるものの、3つ目の指導が藤原に
入り、反則負。高山は初の準決勝進
出となった。

朝比奈沙羅 ○大内返 山本沙羅

朝比奈沙羅は2週間前の選抜体重
別選手権1回戦で敗れた山本沙羅と
再戦。試合開始から慎重に組み合い、
朝比奈は払腰、山本は大内刈、内股
で攻める。両者惜しい場面はあった
もののポイントにはならない。試合
はGSに突入。互いに技を決めきれ
ないまま延長開始6分45秒、山本が
先に大内刈で仕掛けると、朝比奈は
これを堪えて、大内返で切り返して

有効。延長を含めて約12分の激闘を
制した。

田知本愛 ○大外刈 児玉ひかる

良い内容で勝ち上がってきた田知
本が、序盤から積極的に足技で攻め
て主導権を握る展開。児玉も技に繋
がたいが、田知本の前に自分の組手
を作れず、指導が2つ入る。攻める
田知本にもポイントはなく、GSに
突入。開始1分20秒過ぎ、良い組手
となった田知本は大外刈を仕掛け、
堪える児玉を強引に畳に叩き付けて
豪快な一本勝を決めた。

緒方亜香里 ○小外刈 市橋寿々華

この日、足技が冴えている緒方
は、体重で勝る市橋としっかり組み
合い、上から奥襟を掴んで主導権を
握る。頭を下げさせて内股を狙う緒
方に苦戦する市橋。緒方が試合を支
配して迎えた試合終盤。奥襟を掴ま
れて押し込まれた市橋が苦し紛れに
支釣込足を放つ。緒方はこの動きに
合わせて、奥襟で市橋の身体を制御
しながら小外刈を仕掛けると、見事
一本。緒方が4年ぶりとなる準決
勝の舞台に進んだ。

■準決勝

朝比奈沙羅 ○払巻込 高山莉加

序盤から積極的に攻めるのは高山。しかし、朝比奈を崩すことはできない。朝比奈も支釣込足、内股、払腰で反撃。高山は朝比奈の釣手を警戒し、正面から組み合わないようにして技を出す。ポイントには奪えない。試合が動かないまま迎えた試合終盤、朝比奈は高山の警戒を掻き潜って、釣手と引手をしっかり持って払腰を仕掛け、即座に払巻込に移行して一本。朝比奈が弾みをつけて初の決勝に駒を進めた。



準決勝＝朝比奈（右）が払巻込で高山に一本勝

田知本愛 ◎大内刈 緒方亜香里

5年連続の決勝進出を狙う田知本と、調子の良い緒方との顔合せ。緒方はこれまでの試合と同様に、田知本の奥襟を狙うが、田知本はなかなか掴ませない。田知本は前に出て積極的に大内刈、大内刈で攻めていく。田知本の圧力で攻めあぐねる緒方に2つ指導が入る。試合中盤、先に良い組手になった田知本が大内刈で有効を先取る。必死に巻き返しをはかる緒方だが、田知本はポイントを許さず試合終了。田知本は貫禄の決勝進出となった。



準決勝＝田知本（手前）が大内刈で有効を先取る



決勝＝朝比奈（左）が執念の払巻込で田知本から有効を奪取

■決勝
朝比奈沙羅 ○払巻込 田知本愛
3回目の挑戦で初優勝を狙う朝比奈と、2年ぶりの戴冠を目指す田知本の対戦。朝比奈が右組、田知本が左組のケンカ四つ。互いの技を警戒して組手の攻防が続く。組んでも思い切った技がなかなか出ない両者だが、技が多く出ているのは朝比奈。互いの意地がぶつかる中、残り時間約20秒で、朝比奈が得意の払巻込で一気に巻き込むと、判定は有効。この有効のポイントを守った朝比奈が念願の皇后盃を手中に収めた。



田知本（左）が大外刈を仕掛ける

次世代の旗手として

◎優勝Ⅱ朝比奈沙羅選手（東海大）



順風満帆に思えたが、2週間前の選抜体重別選手権で山本沙羅に1回戦負。しかし、その試合については意外な感想が返ってきた。

「選抜で負けてすっきりした部分があつて、自分は、まだまだチャレンジャーだということを思い出させてくれました。良い試合でした」

敗戦を前向きに捉えて迎えた皇后盃では、守らないことを意識して試合に臨んだという。

「攻め続けることを貫き結果につながつたと思います。選抜で負けているので、この大会で勝つても、すんなり世界代表とは言ってもらえないと思つていましたが、勝たないといけない状況で勝てたことは自信になりました」

朝比奈が柔道を始めたのは7歳。きっかけは、アテネ五輪決勝で鈴木桂治氏が一本勝した試合を見て憧れを抱いたこと。そして、講道館の門を叩いた。めきめきと実力をつけ、15歳で初出場した皇后盃で3位入

賞。世界ジュニアで優勝し、東海大学へ入学した。進学後も各大会で優勝し、着実に実績を積み上げてきた。今後の目標には世界選手権、オリンピックをあげる。

「今後は世界選手権、オリンピックで金メダルを取りたいです。自分より大きい選手との試合が課題なのでしっかり対策して、『世界は朝比奈、頼むぞ』と言ってもらえる選手になりたいです」

ロンドン五輪以降、女子柔道の重量級を牽引してきたのは山部佳苗と田知本愛だった。しかしその勢力図も変わりつつある。昨年末の講道館杯、グラندスラム東京は朝比奈、4月の選抜柔道体重別選手権では高校生の素根輝が優勝し、確実に世代交代の波が押し寄せている。リオ五輪以降、朝比奈は「これからは自分が次世代を引っ張る」という言葉をよく口にする。状況が変わる中、新たな牽引者としての強い自覚と決意が窺えて頼もしい。大会後、朝比奈は初の世界選手権代表に選ばれた。代表選手として、次世代の旗手として、どんな試合を見せてくれるのか、これからが楽しみである。

◎準優勝Ⅱ田知本愛選手（ALSOK）

「最後は自分の柔道ができませんでした。それが自分の実力だと思えます。結果としては昨年と同じ2位で、復活とはならなかったですけど、この畳に戻って戦えて良かったです。昨年のまま終わっていたら納得できないままだったので、出場して良かったです」

▽3位Ⅱ緒方亜香里選手（徳寺学園職）

「今日の試合に懸けていたので悔しいです。熊本地震から1年経って、両親や熊本に良いニュースを届けたかったのととても残念です」

▽3位Ⅱ高山莉加選手（三井住友海上）

「選抜で1回戦負しているので超級の選手に比べて背負うものがなく、自由に試合ができました。三井住友海上で指導されているような攻めの柔道を貫いて、やりたいことはできました。今後は代表の座を取れるように頑張りたいです」

▽5位Ⅱ児玉ひかる選手（三井住友海上）

「初出場で準々決勝まで上がれましたが、自分の柔道ができなくて、入

賞で悔しいです。選抜では素根選手が優勝しているので、この大会で上位に入って彼女より強いところをアピールしたかったです」

▽5位Ⅱ山本沙羅選手(ミキハウス)

「朝比奈選手には選抜で勝っていますが、ライバルという立場ではなく挑戦者でした。この敗戦を次に活かしたいです。朝比奈選手は選抜のときとは組手を変えて前に出てきました。スタミナ的には良い勝負だったので、手応えになりました」

▽前年度優勝Ⅱ山部佳苗選手(ミキハウス)

「全然だめでした。連覇のプレッシャーと、勝たないといけないという思いが強すぎ、気持ちが空回りしていました。初戦で指を怪我して、組むことができませんでした」

▽今大会最年少出場Ⅱ立川桃選手(新田高)

「簡単に出場できない大会なので、良い経験になりました。大きな選手とまともに組んだら持っていられるので、自分から仕掛けようと思って

いました。今日は手応えを感じることができませんでした。今日の経験は今後に活きると思います」



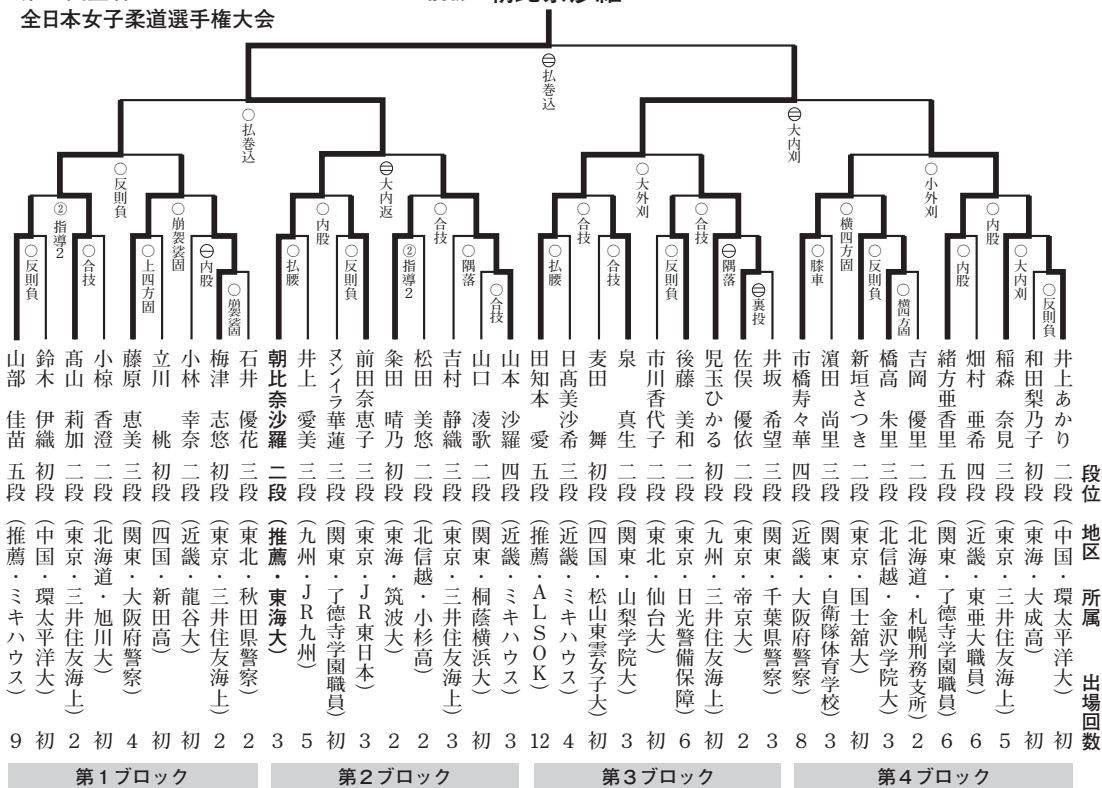
古式の形=取・鈴木常夫六段
受・三橋英夫七段



柔の形=取・石田桃子四段
受・石田真理子三段

第32回皇后盃 全日本女子柔道選手権大会

優勝 朝比奈沙羅



好評発売中

絵と文 中村 麻美 (なかむら まみ)

F4判・上製・98頁・定価(本体2700円+税)

伝えたい日本のこころ



中村麻美 (なかむら・まみ) 画家・挿画家。三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大学卒。大学在学中、日本画教室(田中峰雪氏に師事)にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教授業、第十八代ミス日本グランプリ、NHK BSニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者などの挿画を手がける。また、原作新聞小説

挿画を描いたNHK大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。代表作に『天地人丸紋絵巻』(兼続お船ミュージアム所蔵)、『斎王』(三重県立斎宮歴史博物館所蔵)など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のこころ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」——こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。(本書「あとがき」より)

目次

- 一 かしこい小僧さん
- 二 ひよどり越え
- 三 天の石屋戸
- 四 巖流嶺の決闘
- 五 太田道灌と少女の歌
- 六 三本の矢の教え
- 七 山中鹿介——我に七難八苦を与えたまえ
- 八 良寛さまと笛
- 九 民を慈しむ仁徳天皇
- 十 中江藤樹——母への葉
- 十一 夫の危機を救う弟橘媛
- 十二 良子斎王——別れの御櫓
- 十三 桜井駅の別れ
- 十四 八俣の大蛇
- 十五 川中島の戦い——謙信と信玄
- 十六 紅梅内侍と鶯の宿
- 十七 新羅三郎義光——笙の秘曲を授ける
- 十八 小松姫——夫の居城を守りぬく
- 十九 青の洞門
- 二十 鍋島直茂と接ぎ木
- 二十一 小林虎三郎——米百俵の精神
- 二十二 島津義弘——関ヶ原敵中突破
- 二十三 光明皇后——千人のからたを洗う
- 二十四 城戸俊三——勝利を捨てて愛馬を救う
- 二十五 松坂の一夜
- 二十六 柳に飛びつく蛙
- 二十七 称名寺『青葉の楓』
- 二十八 神武天皇で東征
- 二十九 本多忠朝とサンフランシスコ号
- 三十 つるべの朝顔
- 三十一 野中兼山——海に捨てたはまぐり
- 三十二 鉢の木
- 三十三 因幡の白うさぎ
- 三十四 堪忍のわび証文
- 三十五 橘曙覧『独楽吟』
- 三十六 南総里見八犬伝
- 三十七 吉田松陰の志
- 三十八 鳥居強右衛門の勇氣
- 三十九 明智光春——譽れの湖水渡り
- 四十 赤穂義士の討ち入り
- 四十一 頼朝を助けた梶原景時
- 四十二 真田幸村——大坂の陣
- 四十三 天照大御神と美し国・伊勢
- 四十四 和田勇——祖国にオリンピックを招致
- 四十五 長岡花火『白菊』



編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)

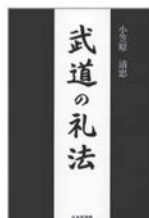


武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

(四六判・上製・248頁)

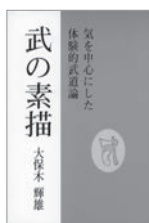


武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)

第61回全日本銃剣道優勝大会

●一般の部

神奈川県選抜が

3年ぶり6回目の優勝

第61回全日本銃剣道優勝大会が4月23日、日本武道館で開催された。昨年の第60回大会は熊本地震の影響により中止となったため、2年ぶりの開催となる。

大会は、これまでの一般の部第1部と第2部を統合した(1)一般の部(都道府県連盟、実業団、クラブ、道場、大学、新たに高等学校)、(2)防衛省第1部(陸自指定)、(3)防衛省第2部(海自、空自、第1部以外の陸自)の3部門で、計237チーム、選手・監督1246名が参加して実施された。

一般の部では、神奈川県選抜が兵庫県選抜を退け、3年ぶり6回目の優勝を遂げた。防衛省第1部は、第1普通科連隊(東京)が第4特科連隊(福岡)を破り、4年ぶり3回目の優勝。防衛省第2部は、対馬駐屯地(長崎)が日本原駐屯地(岡山)を降し、16年ぶり3回目の優勝を果たした。

試合はトーナメント方式、試合時間3分、3本勝負で争われ、時間内に勝負が決しない場合は、判定により勝敗を決した(全部門共通)。



一般の部決勝・中堅戦＝神奈川・野田(左)が上胴を決める

一般の部（3人制・51チーム）

ベスト4には、兵庫県選抜、弘前支部（青森）、東京都選抜、神奈川県選抜が勝ち上がった。

神奈川は、1回戦で新潟Bを2―1で、2回戦で山口を3―0で、3回戦で山梨Bを3―0で、4回戦では九徳塾A（滋賀）を2―1で破り、準決勝で東京と対戦した。



一般の部決勝・大將戦＝神奈川・鈴木（左）の上胴2本目

先鋒戦、神奈川・野原は東京・花本に先取されるものの、下胴二本を返して勝利した。中堅戦は神奈川・野田が不戦勝となった。大將戦では、神奈川・鈴木が上胴で先取。東京・郷が上胴で一本を返すものの、最後は鈴木が下胴で二本勝ち。神奈川が3―0で東京を降し、決勝に進出した。

対して兵庫は、1回戦で春日井クラブ（愛知）を3―0で、2回戦で横浜修悠館C（神奈川）を2―1で、3回戦で本間道場（神奈川）を2―1で、4回戦では防衛大学校B（神奈川）を2―1で破り、準決勝へと進んだ。準決勝では弘前支部と対戦。

先鋒戦、兵庫・増田道仁が上胴二本で勝利する。中堅戦も兵庫・増田良明が上胴二本を決めて勝利した。大將戦は弘前・熊谷が上胴二本勝ちを収めたが、兵庫が2―1で勝利し、決勝へと駒を進めた。

▽決勝

神奈川県選抜 2―1 兵庫県選抜

野原 崇 上上 増田道仁

野田峻祐 下上 増田良明

鈴木崇之 上上 川端範久

先鋒戦、開始早々に兵庫・増田道仁が神奈川・野原に対し上胴で先取。間髪（かんぱ）を入れず増田は上胴で二本連取し、勝利した。

中堅戦、近間から神奈川・野田と兵庫・増田良明が同じタイミングで胴を出す。野田は増田の胴を躲（かわ）し下胴を決めて先取。続けて野田は後退して上胴を奪い、勝利した。

大將戦、神奈川・鈴木は、上胴二本で勝利し、神奈川が2―1で兵庫を退け、3年ぶり6回目の優勝を遂げた。



一般の部優勝＝神奈川県選抜

◎優勝Ⅱ神奈川・安西直毅監督

「優勝できて率直にうれしいです。勝ちたいという気持ちと日々行っている稽古の積み重ねが決勝での結果となりました。昨今、中学校の武道授業において銃剣道が取り上げられておりますので、注目される試合だなと思っています。県内の銃剣道採用校とも関わりがあるメンバーもおります。これを機に子どもたちに試合を見てもらい、銃剣道が発展するよう頑張っていきたいです」

防衛省第1部（5人制・69チーム）

第1普通科連隊（東京）は、初戦である2回戦で第11施設群（福島）を5―0、3回戦も第2普通科連隊（新潟）を5―0で破り、いずれもストレート勝ちした。4回戦は第34普通科連隊（静岡）を3―2で、5回戦も第1空挺団（千葉）を3―2で制して、準決勝へと進んだ。準決勝は第14普通科連隊（石川）と対戦した。

準決勝の第1普連と第14普連の試合では、先鋒戦で第1普連・江良が判定勝ちとなる。次鋒戦は第14普

連・長谷川の判定勝ち。続く中堅戦、副将戦、大将戦と第1普連・川村、松野、山崎が連続して判定勝ちを収め、4―1で第1普連が勝ち進んだ。

一方、59回大会準優勝の第4特科連隊（福岡）と、59回大会優勝の第16普通科連隊（長崎）の準決勝。先鋒戦は、第16普連・中村が上胴二本を決め、勝者となる。次鋒戦は、第4特連・江口が上胴、コテを決めて二本勝ち。中堅戦、第16普連・中前が判定勝ち。副将戦、後がない第4特連・大庭が上胴で先取る。再び上胴を決めて二本勝ちとなる。大将戦、第4特連・平島が判定勝ちを果たし、3―2で第4特連が勝利。決勝へと進んだ。

▽決勝

第1普通科連隊 4―1 第4特科連隊

江良将人	上―	松本翔平
福田賢二	―判	江口俊太郎
川村貴嗣	判―	平石拓也
松野和樹	上判―上	大庭裕二
山崎泰弘	ノ判―下	平島直樹

先鋒戦、第1普連・江良が開始早々に胴を繰り出す。負けじと第4特連・松本も胴で攻める。一進一退



防衛省第1部決勝・先鋒戦＝第1普連・江良（右）の上胴



防衛省第1部決勝・大将戦＝第1普連・山崎（右）がノドを奪う

の攻防が続くものの、開始およそ2分、江良が松本の隙をついた上胴で先制。その後は、松本が攻勢をかけるが江良はそれを冷静に捌き、そのまま一本勝ちとなった。

次鋒戦、中堅戦は決め手なく、それぞれ第4特連・江口、第1普連・川村が判定勝ちとなる。

注目の副将戦、第4特連・大庭が

第1普連・松野の間隙に上胴を決めて先取る。しかし、松野は大庭を試合場端へと追い込み、遠間から上胴で一本返し、試合を五分に盛り返す。その後も松野が優位に試合を進め、勝敗は判定となり、松野に旗3本が上がった。この時点で第1普連の優勝が決まった。

大将戦も第1普連・山崎が判定勝



防衛省第1部優勝＝第1普通科連隊（東京）

ち。第1普通科連隊（東京）が4年ぶり3回目の優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ第1普連・出浦渉監督

「2年ぶりの大会となりましたが、優勝できてよかったと思います。この大会に向けて、九州で3週間ほど稽古を行いました。稽古では、判定





防衛省第2部決勝・副将戦＝対馬・竹中（右）が下胴で一本



防衛省第2部優勝＝対馬駐屯地（長崎）

防衛省第2部（5人制・117チーム）

で負けていても、最後まであきらめずに攻める練習を行いました。決勝では、皆、後ろにつなぐ心を忘れなかったことが勝利できた要因だと思います。来年も連覇を目指し頑張ります」

準決勝は、対馬駐屯地（長崎）と

松山駐屯地（愛媛）、日本原駐屯地（岡山）と（空）那覇基地（沖縄）の対戦となり、対馬が3―2で、日本原が5―0で、それぞれ決勝に進出。

▽決勝

対馬駐屯地 4―1 日本原駐屯地

尾崎秀次郎 上― 植田晋悟

塩釜清彦 ―判 竹内良太

森田年彦 判― 徳田裕人

竹中宏信 下― 厨子真守

北慎一郎 上判―下 藤原考貴

先鋒戦の前半、対馬・尾崎と日本原・植田の接近状態が続く。後半、

尾崎が突き技を連続で放ち、後退した植田から上胴を奪った。試合は終了となり尾崎の一本勝ちとなる。

次鋒戦は日本原・竹内の、中堅戦は対馬・森田の判定勝ちとなった。

副将戦の前半、対馬・竹中と日本原・厨子が互角の攻防をみせる。基

本の間合いから厨子は胴を繰り出す。それを狙っていた竹中が下胴で先取して、そのまま試合は終了。対馬の優勝が決まった。

大将戦では、昨年の選手権覇者の対馬・北が下胴で先制されるものの、冷静に上胴を返す。北の判定勝ちとなり、対馬は16年ぶり3回目の優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ対馬・権藤恵介監督

「大先輩たちに続いて3回目の栄冠を勝ち得ることができ、非常にうれしいです。チームワークを大切に、常に戦場を心がけて稽古に励んできました。それが結果に繋がったと思います」

【大会結果】

▽一般の部Ⅱ①神奈川県選抜、②兵庫県選抜、③弘前支部、東京都選抜

▽防衛省第1部Ⅱ①第1普通科連隊（東京）、②第4特科連隊（福岡）、③第14普通科連隊（石川）、第16普通科連隊（長崎）

▽防衛省第2部Ⅱ①対馬駐屯地（長崎）、②日本原駐屯地（岡山）、③松山駐屯地（愛媛）、（空）那覇基地（沖縄）

マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

B5判・302頁・本体1,000円＋税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。
収録偉人一覧：嘉納治五郎（柔道）、高野佐三郎（剣道）、阿波研造（弓道）、双葉山（相撲）、船越義珍（空手道）、植芝盛平（合気道）、宗道臣（少林寺拳法）、園部秀雄と三田村千代（なぎなた）、鶴沢尚信（銃剣道）

マンガ・武道の偉人たち



ご注文・お問い合わせ 日本武道館 月刊「武道」編集部 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp> インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索！

好評発売中

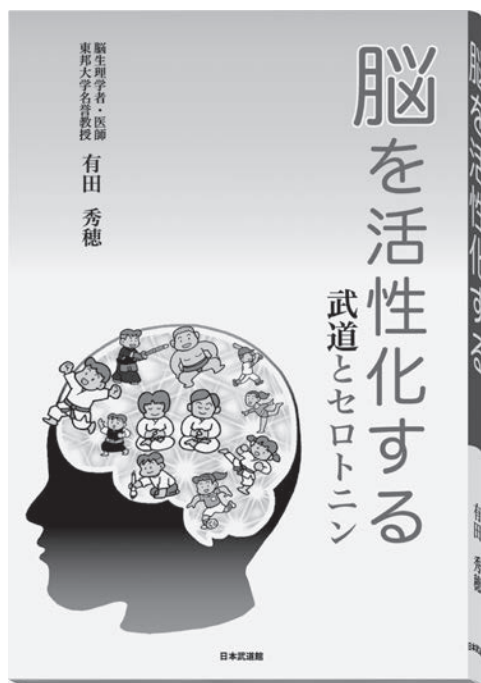
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン
ストレスとしごき
空海はセロトニン活性の達人
『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング
沢庵の「不動智」とワーキングメモリー
不動明王と心の三原色
『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識
悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成
「茶の湯」とセロトニンの生活
「自然に体が動いた」を脳科学で解く
勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する
「武道の礼法」は社会脳を育む
相撲の「四股」は品性を育む
書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心
日本の祭にはセロトニンがたっぷり
スキップとオキシトシン
空手の稽古は坐禅修行に通じる
脳は「丹田呼吸法」をどう操るか
試合における最適な覚醒状態
サイエンスは「気」をどこまで解明したか
仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光
東邦大学名誉教授 有田 秀穂

： 他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中！

日本武道館編

日本の武道

日本武道館 編

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法などなごた銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

(B5判・上製・箱入・526頁)

目次

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすすめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（「武道憲章」・「武道憲章英訳文」）
カライ口絵（日本武道館・9武道・10日武協30年のあゆみ）

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野寛明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え…………… 村田直樹 講道館図書資料部長
第4節 武道の魅力…………… 大保木輝雄 埼玉大学教授

第5節 学校武道の歴史…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道の教育力…………… 菅野 純 早稲田大学教授
第7節 日本武道館…………… (財)日本武道館

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………
第2節 全国都道府県立武道館協議会……………
第3節 日本武道学会……………
第4節 日本古武道協会……………
第5節 武道学科等設置大学…………… ①国際武道大学 ②国士館大学
③東海大学 ④日本体育大学 ⑤鹿屋体育大学 ⑥中京大学
⑦天理大学 ⑧筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………
第4節 年表「武道・近代百四十歩の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書……………

(現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。